

(令和5年度)

第三者評価シート

今年度は、昨年度と比較できるよう、同じ評価項目で実施しています。

学部ごとの集計結果と全体の結果を比較できるよう一覧にしたものを用意しました。第三者として、別添の保護者並びに教職員による評価結果をご覧ください、率直なご意見、ご感想等を含めた評価をお願いいたします。

1 教職員評価、保護者評価の全体傾向に関して

今回の学校評価集計結果から、保護者及び教職員共に学校に対する評価の高さがうかがうことができました。とくに教職員評価に関しては、前年度と比較検討されたことで、改善点と課題が明確になったと思われます。前年度の評価が相対的に低かった項目に対しては、学校全体として意識的に取り組まれた結果といえます。一方、評価が下がった項目に注目すると、知的障害特別支援学校の今日的課題も顕在化してきたように思います。例えば、「児童生徒の障がい及び発達課題に適した学習集団が考えて指導している」については、高等部で20ポイント下がっている点は、地域の状況や知的障害を伴わない発達障害の生徒の増加による集団編成や指導体制の難しさがあると考えられます。児童生徒やその保護者の多様な教育的ニーズ、地域からの期待などを考えると、学校全体として考えなければならない大きな課題かもしれません。引き続き、改善に向けてご尽力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

2 各視点・個々の設問に関して

個々の設問に関しては、学校経営方針に対する評価項目としては妥当だと思います。そのうえで、個々の設問でいくつか意見を述べさせていただきます。各項目の評価を見ますと、学部によって特徴があるように感じます。例えば「ICTの効果的活用」や「情報教育の充実」については小・中学部でやや評価が低いことがあげられます。コロナ禍で一気に児童生徒1人に1台端末が導入される中、とりわけ低年齢の知的障害児への指導、対応には難しさもあると思います。教職員研修も含め、丁寧に取り組む必要があります。また、中学部では「やむを得ず欠席した児童生徒への学びの保障」、高等部では上記でも触れましたが「集団編成や指導体制の課題」や「地域の人材や素材の積極的な活用」などが課題として見えてきたと思います。今後、学部ごとに議論され、課題に向け取り組まれることを期待しています。その他、教職員の働き方改革については、教職員だけの努力では限界があります。さらに地域の関係機関との連携・協働をすすめながら、教職員の方々が働きやすい職場（学校）になるよう意識して取り組んでください。

3 学校評価全体及び各設問、集計方法の妥当性に関して、その他

今回の学校評価結果から、前年度の結果を踏まえ、意識的に取り組まれている項目に関しては改善が図られていることがわかりました。このことは、学校評価が次年度の教育活動に活かされているということだと思います。一方で、地域状況や教育全体の流れを反映した課題については、さらに詳細な検討が必要だと思います。引き続き、児童生徒やその保護者の教育的ニーズに応え、学校教育の充実に向け取り組んでいただきますようよろしくお願い申し上げます。